

まず！やってみる！新聞

守屋もとのり後援会
2025年1月3日発行
NO.3(部内討議資料)
090-5374-1333(守屋)

謹賀新年

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。皆様にご覧いただきは穏やかな新年をお迎えのこととご拝察いたします。今年も「まず！やってみる！」の精神でチャレンジし続けます。よろしくお願ひ申し上げます。

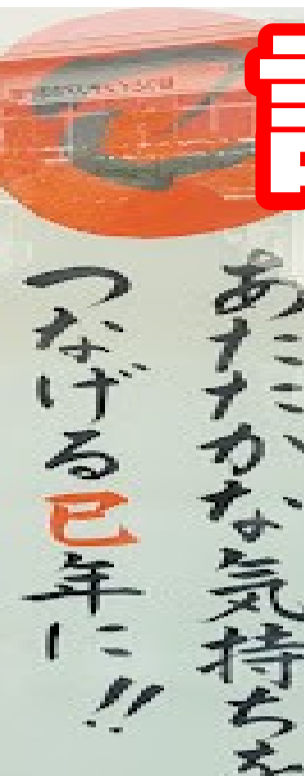
さて、我が家では正月に恒例の書初め大会を行っています。私の一字は「繋」つなぐです。地域の声を行政に繋ぐ、地域でのチャレンジの為に人と人を繋ぐ、また、次世代へ繋ぐという役割が求められていると思っています。人任せにすることなく自分事として全ての事に全力投球で取り組んでまいります。よろしくお願ひします。



後援会ホームページ



各種行事の情報は！
「よし今だ新聞」



財政健全化の流れ

- 8月20日 財政難説明・記者発表
 - 9月 市内一円での財政説明会
 - 11月18日 財政健全化計画(素案)発表
 - 11月22日～12月23日
パブリックコメント募集
 - 12月4日～6日 議会一般質問
 - 12月12日 総務文教委員会協議会
 - 12月13日 厚生産業委員会協議会
 - 12月18日 12月議会最終日
- 最終確定は2月ごろになると思います。
引き続きご意見をお寄せください！

ピンチをチャンスに！人材難にならぬように！

12月議会が11月25日から12月18日の会期で開催されました。今議会は、11月18日に出された「財政健全化計画(素案)」についての是非を問うものです。執行部は大胆な既存事業の削減案を関係団体との協議もないままに発表し、今後丁寧な説明を行うとしていますが、急な財政難、年10億10年で100億の赤字、夕張にもなりかねないという市長の市内全域の説明は市民に大きな不安を強いることになっています。市長は無い袖は振れないと言っていますが、一律の予算カット廃止だけではなく、メリハリのある予算配分をし、夢を与えるのが市長の役目と考えて、市民の皆さんの声を聞きながら大いに議論をすすめてまいります。

財政難は節約やお金を稼ぐことで補えますが、必要以上に煽ることによる若者の流失、市民の意識の減退、笠岡市の職員採用まで影響がでかねません。笠岡市民が一体になって、この苦境での一人ひとりの小さなチャレンジの積み重ねにより、潜在的な笠岡の粘りを今こそ発揮する時ではないかと思っています。決して人材難にならぬように前へ前へ突き進みましょう。

市役所機構改革案抜粋

- ※定住促進センター廃止
 - 空き家関係(都市計画課)
 - 移住・協力隊関係(まちづくり課)
 - 市のPR関係(企画政策課)
 - ※部の統合
 - こども部と健康福祉部を統合
 - 上下水道部と建設部を統合
- 保健師や技術職などが流動体制で対応できる体制づくりを進める。

※具体的な改革案については後援会ホームページに掲載します。

三十歳の集い 世界で一番かわいい羊



1月3日(金)大井公民館で三十歳の集いが開催されました。市内で公民館単位での開催は唯一ということで、関係者の皆さんの苦勞のお陰です。

平成16年生まれ。式典の後、小学校訪問やビンゴ大会で交流を深めていました。

今年は「ひつじ年」ではありませんが年始にあわせてかわいい話題をと想い掲載しました。知人が飼っているペットを先日見せてもらいました。将来的には動物園的なふれあい牧場にしたいと目論んでいます。

ヴァレーブラックノーズシープという種類の羊で、「世界で一番かわいい羊」と言われています。見学希望の方はお知らせ下さい。会いに行きましょう。



年忘れ！餅つき大会



第1回おおど東谷環境保全組合主催の餅つき大会を12月28日に開催し、一年を締めくくりました。

何と！京都から前田親子が参加してくれて元気に杵をついてくれました。恒例の行事として毎年実施したいと意気込んでいます。一緒にどうですか？



ユニークなふるさと納税



これなら出来そう！サンダル議員レンタル島巡りを私がお案内します！

守屋もとのり今年の10大ニュース

- 1月 朝の登校見守り(1月9日から実施)
- 4月 2024年笠岡市議会議員選挙当選
- 6月 立命館大丹波ゼミ受入
- 6月 市議会一般質問デビュー
- 6月 東大戸東谷環境保全組合設立
- 9月 せとうち六島塾開講
- 10月 島の大運動会2024
- 10月 島ラボin北木島開講
- 11月 久々のアイランダー出展(東京)
- 12月 SV岡山シーガルス笠岡で連敗脱出

12月議会一般質問

12月6日（金）

11月18日の財政健全化素案の説明を受けて、12月議会では市民の意見を反映した議会での議論とすべく質問を行いました。今回で3回目となります。12月の一般質問は下記のとおりです。

①財政健全化計画素案について

素案が発表されて、福祉分野の方々を中心に多くの意見が寄せられています。市長はあくまで素案と言いながら、パブリックコメント以外にどういった方法で想いを届けられるか？急な財政難の報道以降笠岡の街は死んでいる。厳しい台所事情の中、市長としてどう切り盛りするかが問われていると思います。一律カット、市民にしわ寄せを強いる財源確保を市民は求めていません。

1.年10億10年で100億の赤字報道について

財政に関する危機感を煽ることにより市民に極端な不安をあたえるだけでなく、対外的な笠岡のイメージダウンが大きい。市長として歳出の削減だけでなく、予算にメリハリを付けて市民に提示することが政治家の仕事ではないか。素案の説明を市民に直接説明する機会を設けるよう訴えました。

2.財政健全化プランの素案策定経緯について

急な財政難報道から、関係団体への協議も不十分な案を提案され、従来笠岡市がやってきた事のない手法は副市長の県の財政再建の踏襲かと問いつつ、市役所の職員十分理解しモチベーションが下がらないように十分なコミュニケーションを持って取り組んで欲しいと考えています。

3.素案の今後の修正の余地について

パブコメ以外にも、直接市長にアポをとって意見を言われる団体もあり、時間のゆるす限り直接話を聞くスタンスであると回答。

4.歳入確保の具体策について

企業誘致については既存の工業用地が完売し、新たな工業用地の取得を進める。施設の使用料については、7年度見直し、8年度改定の予定、ふるさと納税の推進等の回答がありました。今後の取組による希望的な観測でした。

5.福祉事業の大幅カットについて

障害者も含めた笠岡市民の基本的な人権・安心・安全の生活には手を付けていないと明言されていますが、個々の事業については各委員会協議会で議会としての意見を述べていくこととなります。パブリックコメント等により素案の変更もありうるとの回答。

6.栗尾市政の今後の光は？

一般質問初日の桑田議員への回答の中で、4つの無料化の一つである保育料の2人目以降の無料化に取り組むとの回答をされています。

【私の思い】

当初市長は職員の給与に手を付けないと言っていたにもかかわらず、一般職員の給与まで削減対象としています。市長自らの給与ですが、これまでの市長は着任時の7月から任期いっぱい4年間10%カットをされています。一方栗尾市長は、財政説明会での市民の声を受けてか市長自らの給与カットを提案していますが、来年4月から1年限定です。危機感をもって財政健全化を進めるといながらご本人の給与についてはそのような状態です。これで、職員や市民の理解を得られるのでしょうか。勿論、議員報酬もしかりです。

②機構改革について

このことについても、財政健全化プラン（素案）と共に提案されたものです。提案を急ぐあまり、職場内での協議が十分でないとの声があります。

1.策定目的・経緯・今後の協議について

十分な協議を進めて来年2月には最終案をまとめる。①財政健全化プランにも機構改革を明記しており、部や課が統合される事による管理職の減少、流動的に仕事に取り組む事による効率化を図ると回答。しかし、流動化というより、部長の退職後の不補充については、人材不足？と感じるのは私だけでしょうか。

2.定住促進センターの廃止について

何処の市町村も定住促進については最重要施策と位置付けていると認識し、笠岡市も方向性は同じと考えていましたが、まさかのセンターの廃止です。空き家の部分→都市計画課、移住受入れ・協力隊→まちづくり課（協働のまちづくり課より課名変更）シティーセールス等→企画政策課に移管される予定です。

定住施策は空き家対策ではないと思っています。空き家バンクへの登録やマッチングは不動産業者にまかせれば良いと思います。定住施策は地域に足りない人を地域外からスカウトすることです。地域おこし協力隊の考え方もこれに似ています。理想は、地域・まちづくり協議会等が活動の中で必要な人材を地域を超えて協力隊制度を活用して地域に呼び込み、地域の方々と共に地域課題解決に取り組むことではないかと思えます。観光→関係人口→移住その流れの中でその窓口、看板は降ろしてほしくないというのが想いです。

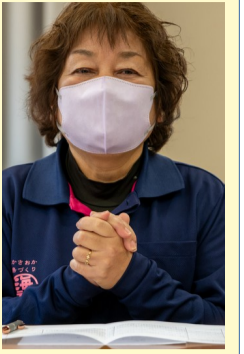
【私の想い】

11月の後援会だよりでも書きましたが、笠岡市の政策を全庁的に進める意味での「調整組織」、例えば「企画調整課」的な役割を担う部署の必要性を感じます。部を統合して流動化させてそれを機能させることはその組織の管理職の手腕が試されるところですが、かなり弱い気がします。

財政健全化等による機構改革にとどまらず、組織を機能させるため、笠岡市の主要施策を推進するためにも、攻めとしての機構改革であって欲しいと願うところです。

シリーズ「まちづくり考」③

今回は、今北木島で実施している「島ラボin北木島」の中で、NPO法人かさおか島づくり海社の森本洋子副理事長のお話をお聞きする中で心に残ったお話を書きたいと思います。



森本洋子さん（真鍋島）については、知らないともぐり？と言われるくらいの笠岡諸島の活性化の立役者の1人です。現在は、NPOの副理事長として、島のデイサービス事業の管理者やNPOの事務局として企画運営をされています。特に真鍋島ではうららの家の管理者と島の民生委員も兼務されています。先日の島ラボの中で、現在の真鍋島の福祉事情のお話を伺いました。現在真鍋島には要介護者が9名いて、その内6名の家族の方は親の介護のために島にUターンされて面倒を見ているとのこと。これって凄くないですか？介護事業は島の活性化とは逆のパターンと聞いていたのですが、Uターンした方々の話を聞くと、自分の親が島で生活するためには、デイサービス職員や森本さんのような民生委員の方のサポートが無くては生活できない。これまで多大なサポートをいただいているので、人任せにしてお願ひする事は出来ないと言うのです。森本さんは要介護者の方々の身内の方とのコミュニケーションを密にして、何かあった時は即座に対応できるネットワークを構築されています。

コロナ以降、地域の絆の必要性が叫ばれる中、島のキーマンによって構築されたネットワークがあり、当事者だけでなく家族とのコミュニケーションが取れることが真鍋島独自の介護事業を展開できる秘訣であり、そんな絆により、島へのUターン者が増えているという素晴らしい事例を聞くことが出来ました。地域の一人ひとりが自分事として真剣に高齢者のことを考えることにより、新たな突破口が拓けると言っても過言ではありません。

竹喬美術館友の会入会しませんか？

先日、竹喬美術館友の会を紹介いただき、早速加入したら何とこんなにいただきました。

竹喬先生の語録集や友の会報バクナンバーなどなど、友の会の年会費は3000円で、特別展は何回でも、特別陳列は会期中1回という特典です。その他にも会報誌や友の会の旅行のご案内もあり、大変得をした想いです。

11月23日にはギャラリートークが企画されていたので、今開催の入江西一郎画伯の特別展を学芸員の方の解説付きで1時間鑑賞させていただきました。学芸員さんの作品収集の苦労話やパンフレットに使う作品の選考の仕方等々。毎回の特別展のパンフレットの写真は担当学芸員の一推しの作品が選ばれるとか。でも、作風や被写体に寄って受け取る側の反応が変わるそうです。今回は動物なのでポスター等貼ってもらいやすいとか。特製の動物クッキーやペーパークラフトも販売されています。



【編集後記】

12月議会は私の中ではこれまで一番充実した議会でした。改めて議員の役割を自分自身で考えてトライしたつもりです。思い余って不適切な発言をする場面もあり、反省点もありますが、自分なりに問題点を見つけて、その裏を取るといった地道な取組でした。

一般質問・厚生産業委員会等でも積極的に意見を述べさせていただきました。私は元職員という経験値を活かして市政発展のために力を尽くすために議員にならせていただきました。

今回の財政健全化プランについては、福祉分野を中心にかなり市民の方々の声が出されていましたが、議会としての対応はどうであったかと、少し疑問を持つところがあります。各委員会では協議し、意見が述べられていますが、個々の意見に過ぎないと言った感想です。議員一人ひとりが市民の声を真摯に聞いて、それを議会の中で意見交換し、そして議会の声として執行部とのやり取りをしないとあまり意味をなさないのではと思います。委員会報告でこのような意見が出されましたというだけで、その重みを執行部が認識するような行程を経ていないと単なる意見として片づけられそうな気がする。

笠岡市からのお知らせ

パブリックコメント
財政健全化
プランへの
募集中

意見を広く募集しております

11月22日～12月23日

